

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200651		
法人名	株式会社 小野		
事業所名	グループホーム 吉岡楽々苑 「和」ユニット		
所在地	岡山県倉敷市吉岡344番地		
自己評価作成日	平成27年07月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200651-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成27年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

正直、特に「ここだけは、どの施設よりも凄い！」という点はありませんが、グループホームの特徴を活かして個別支援には努力をしています。「全体で何か」より「この方には何か」という考え方に重きを置いて生活の支援をしています。例えば、ユニット全員で行うお誕生日会とは別で、ご入居者様と職員の1対1でお買い物や外食を楽しむ外出支援、なるべくご入居者様本人の意向を大切に、尊重した様々なリクエストへの対応があげられます。ご入居者様の中には遠慮される方、また、認知機能の低下やその他の疾病、障害によって明確なリクエストをされない方もいらっしゃいますが、職員は日々の介護の中でしっかりとご入居者様とコミュニケーションを図り、意欲を引き出す、気持ちを汲み取る介護を心掛けているからこそ可能なことだと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①利用者一人ひとりの要望に合わせた個別外出、外食に取り組んでいる。職員と1対1で外出することは、利用者にとって特別感があり、満足度アップに繋がっているため、今後も継続してほしい。
 ②施設長は、定期的(夏と冬)に職員と面談することで、職員一人ひとりの希望や要望、事業所の特性等を十分把握している。また、職員が言いやすい、伝えやすい環境作りにも努めている。そして、施設長に直接言いにくいことでも 職員から各ユニット管理者、施設長へと意見、要望等を伝える報告・連絡・相談系統が構築されている。
 ③職員に対して、勤務体制や有給消化、コスト面に関して具体的に説明し、情報提供も行っている。また、親睦会や食事会を通じて、積極的にコミュニケーション向上を図っており、仕事がしやすく、風通しの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき、ボランティア等地域の方との交流を深めている。	スタッフルームに理念を掲げているので職員は出勤時と退勤時に確認できる。入社時には代表、施設長から理念について説明が行われている。職員間で「地域の方との結びつき」について、議論することもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の秋祭りで事業所に千歳楽が来て大変喜ばれた。	近隣の小学校から学区探検を受け入れたり、保育園に見学に行くこともある。近隣の公園や川土手に咲いている花を見に散歩へ出かけている。今後は中学生等の職業体験も受け入れをしたいと意欲がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けたり、地域の小学校からの学区探検等を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例等を相談し、意見を頂いた事がある。	2ヶ月に1度、平日の昼間に開催している。町内会長、民生委員、高齢者支援センター、他グループホーム管理者、利用者、家族等の参加がある。会議では社内研修の報告や情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとの情報交換を行い、入居希望者の受け入れ態勢を作っている。	必要な事柄については、施設長が電話で尋ねたり直接窓口まで出向くこともある。倉敷市や岡山県主催の研修の知らせが届くので、可能な限り参加している。高齢者支援センターとも情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	屋外はすぐに公道がある為玄関の施錠はしているが、常に施錠はせず、職員の手薄になる時間以外は開錠している。	身体拘束について内部研修を行っている。自ら車椅子やベッドから降りようとする利用者には、居室にマットレスや布団を敷きつめて怪我をしないように対応した経験がある。安全面と防犯を考慮し、玄関を施錠する時間はあるが、洗濯干しや畑を見に日常的に職員と一緒に庭にでている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い日々行なっている介護について見直し、虐待とはどのようなものかを意識付けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定があった場合は施設長または管理者が書面と口頭で説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置しているが、家族は面会に訪れた際、直接職員に相談している。家族からの要望等は職員で検討し、実現可能なことは実施している。また、体調面については医師に指示を仰ぐこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回面談をし、職員からの意見を反映するようしている。	年2回、施設長が人事考課表(自己評価表)を用いて、職員面談を行っている。その他、日常的に職員は管理者に相談し、施設長・代表へと意見を上げている。また、各ユニットで親睦会を開いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の評価を下に代表者は働きやすい環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修や外部研修を行い、知識や技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型サービス専門分科会」「小地域で認知症を支える会」等への参加で有意義な情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントを行い、以前おられた環境により近づけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントを行い、より良い対応方法を聞きケアに反映するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前アセスメントで得た情報を基にケアプランを作成し、職員に周知し、統一した介護を行うようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活リズムに合わせ職員中心で動かないようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊をし、家族と過ごす時間を作って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊で馴染みの場所へ行って頂いている。	自宅へ戻り、掃除や草取り等行う利用者もいる。ドライブで、以前の勤務先周辺に行くこともある。家族や知人の面会もあり、居室でお茶を飲むなどして過ごしている。昨年からの新しい取り組みとして、家族宛ての年賀状作りにチャレンジしてる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアだけでなく、居室で入居者同士が過ごす時間もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入居者様の退去時に、ご家族様に対して「今後もお困りの際にはいつでもご相談ください。」とお声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で要望等を聞きだし、ケアに反映している。	入居の際、これまでの生活歴を聞いたり、自室の様子など実際に見せて頂くことで、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。また、入浴や排泄など職員と1対1になった時や、普段の会話の中から、思いをくみ取るように心がけている。また、家系図を作成し、生活を紐解きながら利用者に沿ったプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居者のアセスメント時、出来るだけ自宅へ訪問し、同じような環境をつくるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰な介助をせず、本人の出来ること、出来ない事を見極め、統一した介助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議を開き、現状の維持、向上に向けた支援方法を話し合い、ケアプランに反映させている。	各ユニットごとに会議を開いて話合うが、事前に担当スタッフはアセスメントを取っており、その上で意見を出し合い検討した上で、ケアマネがプランニングしている。家族や主治医からも意見を聴取している。出席できない職員には、事前に気づきや意見を聞き取り、反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい変化でも記録には残すようにし、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを基に介助を行っているが、より良い介助方法や対応があれば個人記録へ記入し、情報共有を行い、より適切な介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の避難協力を町内の自治防災組織に依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から入居された方で希望のかかりつけ医で対応して頂いている。	利用者本人や家族の希望するかかりつけ医を基本としているが、選択できるようにしている。協力医としては藤戸クリニックが、24時間体制で往診も行っている。家族対応が基本であるが、対応ができない場合は、近隣の医院や病院に関しては職員が送迎・受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした変化でも看護師に報告をして、看護師からかかりつけ医に報告をしてもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的にケースワーカーから情報を取り、退院時に向けてのアセスメントやカンファレンスを開いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在そのような例はないが、本人、家族からの意向に沿った支援ができるよう、研修を行った。	今のところ施設での看取りの経験はない。看護師3名に加え、施設長も看取りの経験があることから、今後、積極的に対応していきたいと考えている。外部研修へは看護師が出席し、内容等を持ち帰り、職員に伝えている。急変時のマニュアルや緊急時のフローチャートの備えは万全である。	看取り経験のある施設長と管理者がいるので、職員も心強いと思います。メンタル面も考慮しつつ、一人ひとりがしっかりと勉強できて経験を積んでいけるような取り組みが実現できるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク委員作成の事故発生対応マニュアルを活用し、事故発生時はマニュアル通りに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。	日中と夜間を想定した火災訓練を行っている。水消火器を使用したり、自動通報装置を作動しての訓練も行っている。防災カーテンやスプリンクラーも設置済みである。代表宅倉庫には、備蓄も準備している。ハザードマップに関して、近くの看護学校に話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇研修を行い、日々の対応を見直す機会を作っている。	毎月の職員会議で、代表者や施設長から接遇に関して指導を受けている。職員は利用者を「人生の先輩である」と敬意を払っているため、日々丁寧に利用者の尊厳を守りながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者中心に判断するのではなく、本人に必ず聞き、介助・対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、生活リズムを崩さないよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、出来る範囲で整容して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の残存機能を活かし、食事準備や片付けを特定の方にして頂くのではなく、全員で行うようにしている。	3食とも、湯せんで温め直した食材を器に盛り付けて提供している。献立は栄養のバランスを考えて管理栄養士が作成している。利用者がリクエストした物を提供することもある。また、畑で採れた季節の野菜を使った手作りメニューやおやつもある。ステーキやラーメン等、不定期ではあるが外食に行くこともある。最低月1回は、手作りメニューに取り組んでおり、利用者と一緒に買い物に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取拒否のある方に対し、一度にたくさん飲水するのではなく、少量ずつ時間をかけ飲水して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿測を行い、排泄パターンを掴み出来るだけトイレで排泄して頂くように支援している。	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを細かく把握している。ズボンまで濡れてしまう利用者もいたが、排泄パターンをつかめるまでトイレ誘導を行った結果、トイレで排泄できるようになり、現在パット使用で、失敗がほとんどなくなった方もいる。利用者一人ひとりに合った各種・サイズのパットで細かい交換対応に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をなるべく使用せず、牛乳や寒天を使用したおやつを作ったり、便秘茶を飲水し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、毎日全員に声をかけ入浴をして頂いている。	基本的には、利用者の希望に合わせているので毎日入浴している利用者もいる。拒否があっても週3回は入って頂き、清潔を保持できている。冬場、ゆず湯にしたり、入浴の順番に配慮しながら、入浴に興味を湧くように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に自由に日中臥床時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員が薬情を見ることが出来るよう保管位置に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリとして個々の残存機能を活かし、掃除や食器洗い等して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望を聞き、家族と映画に行ったり、回転寿司に行ったことがある。	日常的に洗濯干しや取り込み、散歩等、ほぼ全員の方が、一日のうち何回かは戸外に出ている。寒い日や暑い日等、自然の気温を体感する事は大切であると考えている。気候の良い時は、ウッドデッキでおやつを食べたり、玄関外でラジオ体操を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしていないが、外出先で買い物をした時には本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を送ったり、親戚にはがきを出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、フロアには入居者で作ったカレンダーを貼り、季節を感じたり作品を見て話のきっかけになっている場面を見かける。	各ユニットとも、食卓以外にソファも配置されており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができている。天窓からの日差しが夏場は特に暑いため、シェードをかけて調節している。温度、湿度については利用者が過ごしやすいように配慮している。ホールには、季節の物(花火、ヒマワリ等)を表現した折り紙の作品が展示してあり、四季を感じることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き、ゆっくりとする時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より、家庭環境に近づけるよう自宅で使用していた家具等を持って来て頂いている。	居室入口には、それぞれ表札が掛かっており、利用者一人ひとりのイメージでお花の絵と名前が書いてある。入居前のアセスメントで実際の部屋を見学する等、以前から使用している家具を配置し、自室に近づけるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は基本的にバリアフリー構造となっているが、個々の状況にあわせた導線作りに努め、必要に応じてリビングや居室の様様替えを実施している。また、ご入居者様の生活スタイルに合わせてベッド、フロアマットを検討している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200651		
法人名	株式会社 小野		
事業所名	グループホーム 吉岡楽々苑 「笑」ユニット		
所在地	岡山県倉敷市吉岡344番地		
自己評価作成日	平成27年07月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200651-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成27年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

正直、特に「ここだけは、どの施設よりも凄い！」という点はありませんが、グループホームの特徴を活かして個別支援には努力をしています。「全体で何か」より「この方には何か」という考え方に重きを置いて生活の支援をしています。例えば、ユニット全員で行うお誕生日会とは別で、ご入居者様と職員の間で1対1でお買い物や外食を楽しむ外出支援、なるべくご入居者様本人の意向を大切に、尊重した様々なリクエストへの対応があげられます。ご入居者様の中には遠慮される方、また、認知機能の低下やその他の疾病、障害によって明確なリクエストをされない方もいらっしゃいますが、職員は日々の介護の中でしっかりとご入居者様とコミュニケーションを図り、意欲を引き出す、気持ちを汲み取る介護を心掛けているからこそ可能なことだと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①利用者一人ひとりの要望に合わせた個別外出、外食に取り組んでいる。職員と1対1で外出することは、利用者にとって特別感があり、満足度アップに繋がっているため、今後も継続してほしい。
 ②施設長は、定期的(夏と冬)に職員と面談することで、職員一人ひとりの希望や要望、事業所の特性等を十分把握している。また、職員が言いやすい、伝えやすい環境作りにも努めている。そして、施設長に直接言いにくいことでも 職員から各ユニット管理者、施設長へと意見、要望等を伝える報告・連絡・相談系統が構築されている。
 ③職員に対して、勤務体制や有給消化、コスト面に関して具体的に説明し、情報提供も行っている。また、親睦会や食事会を通じて、積極的にコミュニケーション向上を図っており、仕事がしやすく、風通しの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき、ボランティア等地域の方との交流を深めている。	スタッフルームに理念を掲げているので職員は出勤時と退勤時に確認できる。入社時には代表、施設長から理念について説明が行われている。職員間で「地域の方との結びつき」について、議論することもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園、小学校との交流や外出、散歩などで挨拶を行っている。	近隣の小学校から学区探検を受け入れたり、保育園に見学に行くこともある。近隣の公園や川土手に咲いている花を見に散歩へ出かけている。今後は中学生等の職業体験も受け入れをしたいと意欲がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けたり、地域の小学校からの学区探検等を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他事業所の情報や情報の公開によりアドバイスを頂いている。	2ヶ月に1度、平日の昼間に開催している。町内会長、民生委員、高齢者支援センター、他グループホーム管理者、利用者、家族等の参加がある。会議では社内研修の報告や情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援センターとの情報交換を行い、入居希望者の受け入れや最新の情報収集により適切なケアサービスにつなげている。	必要な事柄については、施設長が電話で尋ねたり直接窓口まで出向くこともある。倉敷市や岡山県主催の研修の知らせが届くので、可能な限り参加している。高齢者支援センターとも情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束することないよう、常に職員間で意見を話し合い努力をしている。玄関の施錠については日中は開錠している。	身体拘束について内部研修を行っている。自ら車椅子やベッドから降りようとする利用者に、居室にマットレスや布団を敷きつめて怪我をしないように対応した経験がある。安全面と防犯を考慮し、玄関を施錠する時間はあるが、洗濯干しや畑を見に日常的に職員と一緒に庭にでている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、職員間で見直し、声かけを行い防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行って理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正があった場合は施設長または管理者が書面と口頭で説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置したり、面会、家族会等でご意見を頂いている。	玄関に意見箱を設置しているが、家族は面会に訪れた際、直接職員に相談している。家族からの要望等は職員で検討し、実現可能なことは実施している。また、体調面については医師に指示を仰ぐこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回面談をし、職員からの意見を反映するようしている。	年2回、施設長が人事考課表(自己評価表)を用いて、職員面談を行っている。その他、日常的に職員は管理者に相談し、施設長・代表へと意見を上げている。また、各ユニットで親睦会を開いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の評価を下に代表者は働きやすい環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修や外部研修を行い、知識や技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議、ケアマネ交流会、研修会への参加により情報収集や知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴をしっかりと聞き、アセスメントを取り、在宅に近い生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気づくりに努め、細やかな情報収集を行いケアに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前アセスメントで得た情報を基にケアプランを作成し、職員に周知し、統一した介護を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活リズムに合わせて職員中心で動かないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室でゆっくりと過ごして頂けるような環境づくりや外出や外泊をし、家族と過ごす時間を作って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊で馴染みの場所へ行って頂いている。	自宅へ戻り、掃除や草取り等行う利用者もいる。ドライブで、以前の勤務先周辺に行くこともある。家族や知人の面会もあり、居室でお茶を飲むなどして過ごしている。昨年からの新しい取り組みとして、家族宛ての年賀状作りにチャレンジしてる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる部分を見つけ出し、個々に役割を持って活動して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常時、相談に応じ情報の提供などの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で聞き出し、ケアに繋がっている。困難事例に関しては会議を開催しご本人本位のケアに努めるようにしている。	入居の際、今までの生活歴を聞いたり、自室の様子など実際に見せて頂くことで、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。また、入浴や排泄など職員と1対1になった時や、普段の会話の中から、思いをくみ取るように心がけている。また、家系図を作成し、生活を紐解きながら利用者に沿ったプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が共有しコミュニケーションの手段や個別ケアに繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰な介助をせず、本人の出来ること、出来ない事を見極め、統一した介助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議を開き、現状の維持、向上に向けた支援方法を話し合い、ケアプランに反映させている。	各ユニットごとに会議を開いて話合うが、事前に担当スタッフはアセスメントを取っており、その上で意見を出し合い検討した上で、ケアマネがプランニングしている。家族や主治医からも意見を聴取している。出席できない職員には、事前に気づきや意見を聞き取り、反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の発言も含めて記録に残し、ケアの実践、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを基に介助を行っているが、より良い介助方法や対応があれば個人記録へ記入し、情報共有を行い、より適切な介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の避難協力を町内の自治防災組織に依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から入居された方で希望のかかりつけ医で対応して頂いている。	利用者本人や家族の希望するかかりつけ医を基本としているが、選択できるようにしている。協力医としては藤戸クリニックが、24時間体制で往診も行っている。家族対応が基本であるが、対応ができない場合は、近隣の医院や病院に関しては職員が送迎・受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな変化も看護師に報告し、適切な診療が受けられるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的にケースワーカーから情報を取り、退院時に向けてのアセスメントやカンファレンスを開いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在そのような例はないが、本人、家族からの意向に沿った支援ができるよう、研修を行った。	今のところ施設での看取りの経験はない。看護師3名に加え、施設長も看取りの経験があることから、今後、積極的に対応していきたいと考えている。外部研修へは看護師が出席し、内容等を持ち帰り、職員に伝えている。急変時のマニュアルや緊急時のフローチャートの備えは万全である。	看取り経験のある施設長と管理者がいるので、職員も心強いと思いますが、メンタル面も考慮しつつ、一人ひとりがしっかりと勉強できて経験を積んでいけるような取り組みが実現できるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク委員作成の事故発生対応マニュアルを活用し、事故発生時はマニュアル通りに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。	日中と夜間を想定した火災訓練を行っている。水消火器を使用したり、自動通報装置を作動しての訓練も行っている。防災カーテンやスプリンクラーも設置済みである。代表宅倉庫には、備蓄も準備している。ハザードマップに関して、近くの看護学校に話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇研修を行い、日々の対応を見直す機会を作っている。	毎月の職員会議で、代表者や施設長から接遇に関して指導を受けている。職員は利用者を「人生の先輩である」と敬意を払っているため、日々丁寧に利用者の尊厳を守りながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者中心に判断するのではなく、本人に必ず聞き、介助・対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、生活リズムを崩さないよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、出来る範囲で整容して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の残存機能を活かし、食事準備や片付けを特定の方にして頂くのではなく、できるだけ全員で行うようにしている。	3食とも、湯せんで温め直した食材を器に盛り付けて提供している。献立は栄養のバランスを考えて管理栄養士が作成している。利用者がリクエストした物を提供することもある。また、畑で採れた季節の野菜を使った手作りメニューやおやつもある。ステーキやラーメン等、不定期ではあるが外食に行くこともある。最低月1回は、手作りメニューに取り組んでおり、利用者と一緒に買い物に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取拒否のある方に対し、一度にたくさん飲水するのではなく、少量ずつ時間をかけ飲水して頂いたり、ゼリーや嗜好品を利用し水分量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かし、トイレでの排泄が出来るようにしている。	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを細かく把握している。ズボンまで濡れてしまう利用者もいたが、排泄パターンをつかめるまでトイレ誘導を行った結果、トイレで排泄できるようになり、現在パット使用で、失敗がほとんどなくなった方もいる。利用者一人ひとりに合った各種・サイズのパットで細かい交換対応に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用しないよう、毎朝ヨーグルトを提供したり、適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在はレクリエーションや運動等の余暇活動の充実に重きを置いて、入浴日を決めている状態にある。今後はどちらも充実した支援が出来るよう業務改善中。	基本的には、利用者の希望に合わせているので毎日入浴している利用者もいる。拒否があっても週3回は入って頂き、清潔を保持できている。冬場、ゆず湯にしたり、入浴の順番に配慮しながら、入浴に興味を湧くように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に自由に日中臥床時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員が薬情を見ることが出来るよう保管位置に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリとして個々の残存機能を活かし、掃除や食器洗い等して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望を聞き、家族と外食をされたり、自宅で草取りをされたりしている。	日常的に洗濯干しや取り込み、散歩等、ほぼ全員の方が、一日のうち何回かは戸外に出ている。寒い日や暑い日等、自然の気温を体感する事は大切であると考えている。気候の良い時は、ウッドデッキでおやつを食べたり、玄関外でラジオ体操を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしていないが、外出先で買い物をした時には本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご親戚からの年賀等を喜ばれる方はおられるが、返信をお勧めしてもそこまでの希望を得られる該当者がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作られた季節に応じた作品を飾り、季節感を感じたり、満足感を得るようにしている。	各ユニットとも、食卓以外にソファも配置されており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができている。天窓からの日差しが夏場は特に暑いため、シェードをかけて調節している。温度、湿度については利用者が過ごしやすいように配慮している。ホールには、季節の物(花火、ヒマワリ等)を表現した折り紙の作品が展示してあり、四季を感じることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き、ゆっくりとする時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より、家庭環境に近づけるよう自宅で使用していた家具等を持って来て頂いている。	居室入口には、それぞれ表札が掛かっており、利用者一人ひとりのイメージでお花の絵と名前が書いてある。入居前のアセスメントで実際の部屋を見学する等、以前から使用している家具を配置し、自室に近づけるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は基本的にバリアフリー構造となっているが、個々の状況にあわせた導線作りに努め、必要に応じてリビングや居室の模様替えを実施している。また、ご入居者様の生活スタイルに合わせてベッド、フロアマットを検討している。		